

帝都復興事業における小学校建設事業 ～東京市の復興小学校について

金山 真人¹・大橋 智子²・佐田 祐一²・多羅尾 直子²・日色 真帆²

¹復興小学校研究会 代表（〒104-0044 東京都中央区明石町1-3-906 タラオ・ヒイロ・アーキテクツ内）
E-mail:mahito@gw7.u-netsurf.ne.jp

²復興小学校研究会（〒104-0044 東京都中央区明石町1-3-906 タラオ・ヒイロ・アーキテクツ内）
E-mail:qwn03762@nifty.com

本稿では関東大震災後の東京市における、小学校校舎の復興事業について述べる。これらの小学校校舎は「復興小学校」として知られているが、設計を担った東京市の営繕組織は、設計規格を採用することで質の確保を図るだけでなく、大正期の新しい教育思潮を反映した学校建築を目指した。今日残された復興小学校校舎は数少ないが、近代主義建築の「標準化、合理化により質の高い建築を市民に届ける」という理想から生み出されたこれら復興小学校の建築は、今なおその魅力を失っていない。理想を「公共」とどう取り結ぶのか、その問いかけこそが、復興小学校建築の今日的意味である。

Key Words : *Earthquake disaster revival , Elementary school , Reinforced concrete structure, Prewar-days term , Public responsibility*

1. 復興小学校とは

東京市において、復興小学校とは関東大震災で罹災した尋常小学校および高等小学校（現在の中学校に相当）校舎を鉄筋コンクリート造（以下RC造）により再建した学校、及びその校舎を指す行政用語である。その数は117校とされているが、ほぼ同時期に復興事業とは別予算により建築されたRC造校舎も存在し（いわゆる「改築小学校」）、それらを含めて東京市は戦前期において171校のRC造校舎を建築したと言われている。我々「復興小学校研究会」では、現在復興小学校に関しては117校全て、改築小学校等を含めると170校の校名を特定している。

復興小学校と従前の小学校の大きな違いは、震災前の小学校校舎は、一部の例外を除き木造であったものを、すべてRC造で再建したことである。1920年に神戸市で日本初のRC造小学校校舎が建築されたのを嚆矢として、全国で少しずつRC造校舎が建てられ始めており、東京市においても1922年に「東京市立小学校建設費補給規程」を改正し、RC造校舎にも市の建設費補助を認めるようになっていた。しかしながら、1923年の震災発生時に東京市内で建設されていたRC造校舎はわずか4棟に過ぎず、震災により多くの校舎を失う結果となった。そこで、東京市が建築局長として迎えた建築構造学の泰斗・

佐野利器（東京帝国大学教授と兼任）は、小学校をRC造で再建する方針を打ち出した。また、その施策を実現するに当たり、小学校校舎の設計、施工の発注形態の変更を試み、従前は各区において設計、施工の発注を行っていたものを、東京市において一元的に行うように改めようとした。しかし、これは各区から激しい抵抗を受け、最終的には施工の発注は従来通り各区で行うが、設計は東京市が一元的に取り扱うことで妥協が図られた。また、設計は民間の設計事務所への委託ではなく、東京市の営繕組織において行う事とし、各所より人材を招集した。

建築史家の藤岡洋保は、設計を担当した東京市の営繕組織が復興小学校に関する設計規格を持っていたことを明らかにした。藤岡によれば¹⁾、その内容は；

- 1) 普通教室の大きさの1/3、桁行2.85m、梁間6.90mをもって1ユニットとし、このユニットを組み合わせで平面をつくる
- 2) 廊下は片廊下を原則とし、桁行2.85m、幅員2.70mとする
- 3) 階段幅は4.00mとし、5～6教室毎に1か所設ける
- 4) 階数は3階建てを基本とし、階高等の高さ方向の基準寸法を定める
- 5) 窓の大きさの基準を床面積の1/5とし、天端及び窓台の高さの考え方を示す

の5点である。短期間に大量の設計業務を遂行するためには、設計規格の整備は必須であったと言えよう。

2. 復興小学校の計画理念と大正期の教育思潮

東京市建築局において小学校建築の責任者であった古茂田甲午郎は、1927年に執筆した『建築学会パンフレット「東京市の小学校建築」』において、小学校建築の規模計画、動線計画、所要室に求められる仕様等を詳細に解説している。古茂田には他にも学校建築に関する論文があり、これらにより復興小学校がどのような設計意図に基づいて計画されたかを知ることができる。近年、教育史の小林正泰が当時の記録や古茂田の論文をベースに詳細な議論を展開している。小林は古茂田の学校建築観として以下の5点を抽出し²⁾、特に1)～3)を「当時の教育界における支配的論調」と指摘している。

- 1) 作業、実験、自学自習の顕著化による普通教室の多機能・複雑化
- 2) 保健衛生設備の充実
- 3) 特別教室、実験室の必須化
- 4) 講堂・集会室と体育館の兼用
- 5) 児童数の増加と施設の社会的公開に伴う「複用」

1) に関しては、明治期以来行われていた、単位となる普通教室を廊下に添って連続して配置するという計画手法自体に変化があった訳ではない。しかし、細部においては種々の工夫がなされており、これらの中には、設計時の学校側とのやり取りの中で実現された内容もあることは注目に値しよう。2) は、明治期以来の学校建築の基本的な命題でもあるが、復興小学校においては佐野利器の強い主張により、教育的意味も含めて水洗便所等の最新設備の導入がされたことはよく知られているところである。

また、小林は震災前の段階で既に全国的に先進校として認知されていた東京市立錦華小学校の大正期竣工の木造校舎（1915竣工）において、2)、3) に関してその多くが実現されていたことを示し、結論として「（復興小学校において）大正期の自由教育的教育実践に適合的な学校環境が構築されていた」「こうした学校建築の機能は、明治から大正にかけて徐々に増設され多機能化してきた（中略）、復興小学校はその集大成的位置づけと考えてよい」としている。すなわち、東京市営繕の設計陣は当時の教育思潮や先進的な施設事例を十分把握したうえで、それを東京市の小学校全体に展開することを目論んだと言えよう。

3. 復興小学校の残存状況について

復興小学校の建築群については、しばしば表現主義的とも評される独特の意匠性から一部の関心を集め、また、併設された小公園との関連で造園・都市計画の分野からの言及がなされてきた。しかしながら、建築史の分野においては、1980年前後に集中的に発表された藤岡洋保の研究以降、まとまった成果が見られない。

2010年に東京都中央区立明石小学校（1926竣工）を始めとする、いわゆる「復興小学校」の保存問題が大きくクローズアップされた。我々「復興小学校研究会」は、明石小学校の保存運動をきっかけに出会った復興小学校に関心を持つ市民と建築家による緩やかな連合体で、復興小学校のみならず、戦前期の鉄筋コンクリート造小学校（尋常小学校および高等小学校）を対象に、建築に関する関心を軸に、教育学、防災史といった分野の研究者ともネットワークの構築を図りながら調査研究活動、地域貢献活動を展開している。その活動の中で、復興小学校等の現存状況の把握も継続的に行っているが、昨年も旧愛宕高等小学校校舎が解体されるなど、年ごとに残存数が少なくなっているのが現状である。本稿には、2014年4月現在のリストを添付した。

4. 復興小学校の今日的意味

関東大震災に直面し、東京市営繕は短期間に大量の小学校建築を供給する使命を担うことになった。そこで建設された学校建築は、規格化によって粗製乱造された建築ではなく、規格化により生み出した時間の余裕を、配置計画の検討や学校側との設計打合せと言った、質の向上に振り向けた結果生み出されたすぐれた建築であった。その意味で、東京市営繕の取り組みは、近代主義建築の「標準化、合理化により質の高い建築を市民に届ける」という理想を実務において発現させたプロジェクトであったと言えよう。そして、理想を「公共」とどう取り結ぶのか、その問いかけこそが、今なお建築としての魅力を失わない復興小学校を始めとする、東京市の戦前期RC造小学校の持つ今日的意味ではないだろうか。個々の建築への価値判断を超えた、プロジェクト全体としての復興小学校の評価が進むことが期待される。

参考文献

- 1) 藤岡洋保：東京市立小学校鉄筋コンクリート造校舎の設計規格，日本建築学会論文報告集 no.290，1980
- 2) 小林正泰：大正期小学校建築と教育実践の連関に関する考察－「復興小学校」の一事例にもとづいて，東京大学大学院教育学研究科教育学研究室 研究室紀要第34号，2008

現存する東京市戦前期RC造小学校 一覧

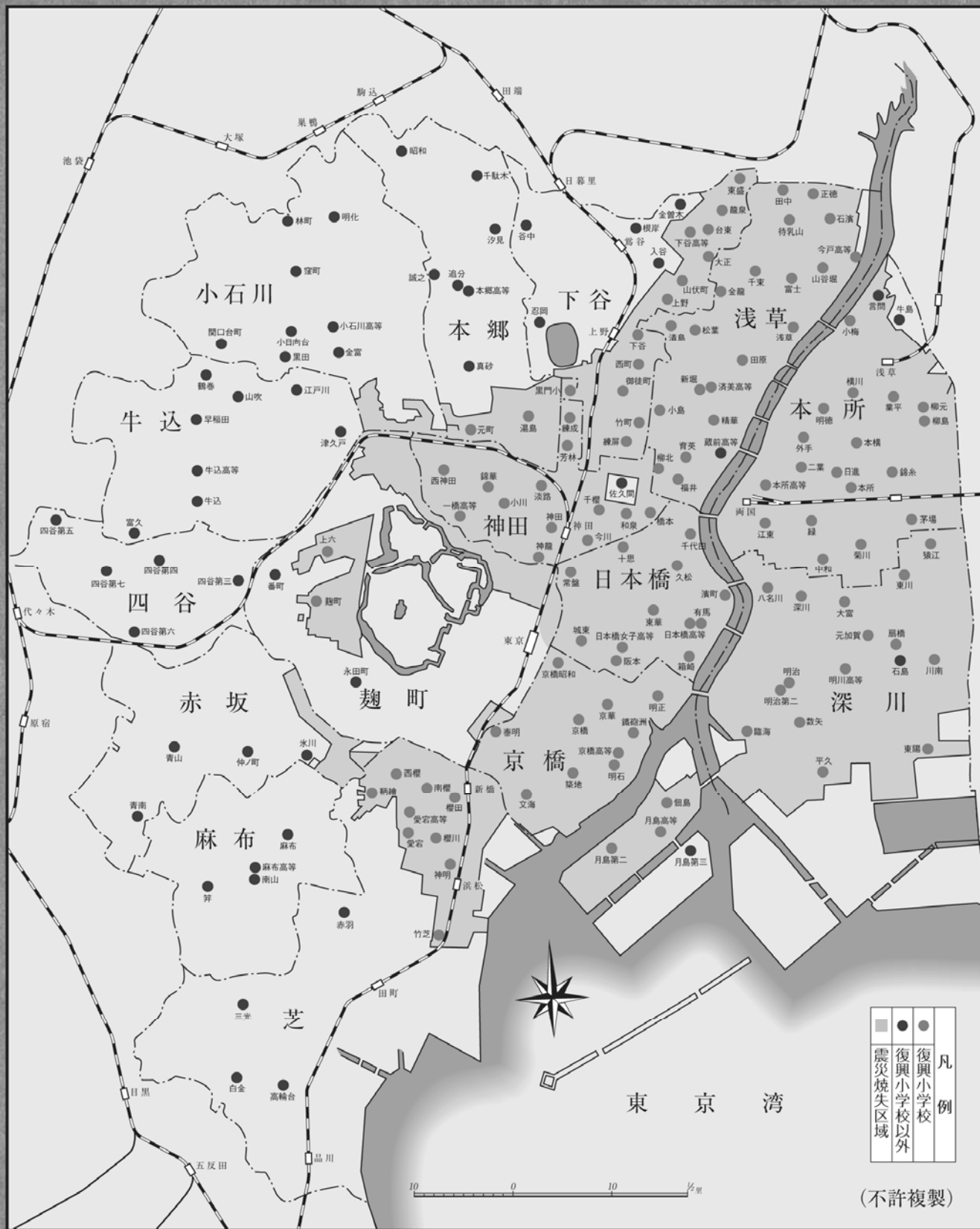
復興小研究会調査による(大橋)

2014/4/7現在

指定	復興・改築	現在	竣工時校名	現存範囲	校舎	体育館	最後まで現存校名	学校の経緯・現在	付属公園	現住所	竣工
産業遺産	○	暫定利用	永田町尋常小学校	全て現存	○	○	永田町小学校	麹町中学校仮校舎2012年7月まで・その後は未定	なし	千代田区 永田町	1937
都歴建	○	現役小学校	上六尋常小学校	昭和43年体育館改築	○	×	九段小学校	九段小学校	東郷元帥記	千代田区 三番町	1926
都歴建・産業遺産	○	転用	十思尋常小学校	平成24年体育館解体	○	×	十思小学校	改修・十思スクエア	十思公園	中央区 小伝馬町	1928
都歴建	○	現役小学校	常盤尋常小学校	全て現存・プール増築のため復興公園側入口が廃止される。	○	○	常盤小学校	常盤小学校	常盤公園	中央区 本石町	1929
都歴建・産業遺産	○	現役小学校	京橋昭和尋常小学校(旧南横町・寶田)	全て現存	○	○	城東小学校	城東小学校・結藤合、校舎は京橋昭和、校名は城東小学校・昭和幼稚園	なし	中央区 八重洲	1929
都歴建	○	現役小学校	泰明尋常小学校	全て現存・内装は戦災で焼失	○	○	泰明小学校	泰明小学校	数寄屋橋公園	中央区 銀座	1929
	○	転用	箱崎尋常小学校	体育館解体・時教室も一部解体・屋上増築一部解体。	△	×	都立日本橋高校	昭和19年より旧制中学として使用し都立高校となるが、移転のため改修平成22年より東京芸術劇場水天宫ビルとして活用	箱崎公園	中央区 箱崎町	1928
	○	現役小学校	阪本尋常小学校	体育館のみ改築	○	×	阪本小学校	阪本小学校・幼稚園	阪本町公園(震災前より)	中央区 日本橋兜町	1928
	○	現役小学校	明正尋常小学校	平成23年解体予定	○	○	明正小学校	改築計画中・明正小学校・幼稚園	越前堀公園	中央区 新川	1927
	○	転用	京華尋常小学校	全て現存	○	○	京華小学校	統合のため廃校・京華スクエア	なし	中央区 八丁堀	1929
	○	暫定利用	柳北尋常小学校	体育館改築・時教室も一部解体	○	×	柳北小学校	育英小と統合し廃校・リセ・フランコ・ジャポネとして活用後未定	柳北公園	台東区 浅草橋	1926
	○	転用	小島尋常小学校	体育館のみ改築	○	×	小島小学校	統合による廃校・2004年より台東デザインーズビルとして活用	小島公園	台東区 小島	1928
	○	現役小学校	黒門尋常小学校	体育館のみ改築	○	×	黒門小学校	黒門小学校	なし	台東区 上野	1930
	○	暫定利用	下谷尋常小学校	体育館校地の変更に伴い引き家のため、一部平面変更	○	○	下谷小学校	統合による廃校後暫定利用が継続。	なし	台東区 東上野	1928
	○	暫定利用	入谷尋常小学校	全て現存	○	○	坂本小学校	統合による廃校後暫定利用	なし	台東区 下谷	1926
	○	現役小学校	待乳山尋常小学校	体育館のみ改築	○	×	東浅草小学校	平成13年待乳山小と田中が統合により待乳山小の校舎を使い、東浅草小学校となる。	今戸公園(現日本堤・震災前より)	台東区 東浅草	1928
	○	現役小学校	千駄木尋常小学校	校舎の一部が戦前RC造・戦後木造校舎を改築・体育館は戦後	○	×	千駄木小学校	千駄木小学校	なし	文京区 千駄木	1936
	○	現役小学校	明化尋常小学校	体育館のみ改築	○	×	明化小学校	明化小学校	なし	文京区 千石	1930
	○	現役小学校	小日向台町尋常小学校	校舎の一部が戦前RC造・戦後木造校舎を改築・体育館は戦後	○	—	小日向台町小学校	小日向台町小学校	なし	文京区 小日向	1938
	○	現役小学校	誠之尋常小学校	2校舎のみ戦前RC造で建て・その他は戦後RC造となる	○	—	誠之小学校	誠之小学校	なし	文京区 西方	1924
	○	現役中学校	通分尋常小学校+本郷高等小学校	改築中・通分小部分平成23年解体・平成25年秋から残りも解体予定・体育館は校地拡大時に改築済み	△	×	第六中学校	区立六中	なし	文京区 向丘	1933
	○	暫定利用	元町尋常小学校	全て現存	○	○	元町小学校	区の管財課の管理の元、暫定利用として関天堂・大学病院と区の施設と併用されている。	元町公園	文京区 本郷	1927
	○	現役小学校	早稲田尋常小学校	体育館解体・時教室も一部解体。	○	×	早稲田小学校	早稲田小学校	なし	新宿区 早稲田南町	1928
	○	現役小学校	津久戸尋常小学校	全て現存・耐震改修プレス	○	○	津久戸小学校	津久戸小学校	なし	新宿区 津久戸町	1933
	○	現役小学校	江戸川尋常小学校	全て現存・一部増築	○	○	江戸川小学校	江戸川小学校	なし	新宿区 水道町	1936
Docomomo	○	暫定利用	四谷第五尋常小学校	全て現存・基本構業による改修不明	○	○	四谷第五小学校	統合のため廃校後、暫定利用が続き、現在吉本興業東京本社	なし	新宿区 新宿	1934
	○	転用	四谷第四尋常小学校	全て現存・転用時にハリアー・北のたけに内部階段改築・耐震改修プレス	○	○	四谷第四小学校	火災によりIRC造校舎に改築・統合のため廃校後、東京おもちゃ美術館+よつや広場となる。	隣接小公園	新宿区 四谷	1936
国登録	○	現役小学校	広尾尋常小学校(竣工時東京市外)	体育館は改築・校舎増築	○	×	広尾小学校	広尾小学校・火災で焼失後、現在地に校地を移転して、改築	なし	港区 東	1932
都歴建		現役小学校	高輪台尋常小学校	大規模改修時に体育館は解体し、一部増築・和風精選に改修	○	×	高輪台小学校	高輪台小学校・大規模改修をおこなう。	なし	港区 高輪	1935
		現役小学校	言問尋常小学校	全て現存	○	○	言問小学校	言問小学校	なし	墨田区 向島	1935

Ⅷ. 東京市鉄筋コンクリート造小学校分布図

(大正11年～昭和13年建設)



(2014.4.7 受付)